

つむら まさお
津村 正男

年初に思うこと

●基幹労連・事務局長

ご安全に！

昨年は、「緊急事態宣言も昨年9月に解除され…年末年始の人の増加が第6波につながらないように…」と書き出しました。残念ながら第6波どころか、執筆している11月末は、第8波の予兆が…今暫く、新型コロナウイルスとの共存は避けられそうにありません。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の長期化、円安、物価の高騰は、産業企業のみならず私たちの生活も大きな影響受けています。私事です…物価上昇は小職の家計をも直撃…小遣いが減らされました。

何とも暗い書き出しになってしまいました。先行きを見通すことが困難な状況ですが、今年こそ穏やかで実り多き一年となりますように…心から願うばかりです。

政策実現活動

昨年は、嬉しいこともありました。その一つが、参議院議員「村田きょうこ」の誕生です。基幹労連結成以来、二人目、9年ぶりの議席を確保することができました。

産業政策、政策・制度の実現は、産業別組合に求められる重要な活動の一つです。これまでは、ものづくり産業の重要性と私たちの求める政策について理解いただいている国会議員の方々の協力を得て、大臣要請や関係省庁の事務方への折衝などを行ってきました。こうした活動は、今後も継続していきますが、組織内議員を国政へ送り込めたことは、加盟組合・構成組織、そしてそこに集う組合員のための取り組み・活動の大きな原動力になり

ます。連携を密にし、活動をサポートしながら政策実現に取り組むとともに、次なる戦いに向けた組織力の強化と活動の理解・浸透に努めていきたいと思っています。

人への投資

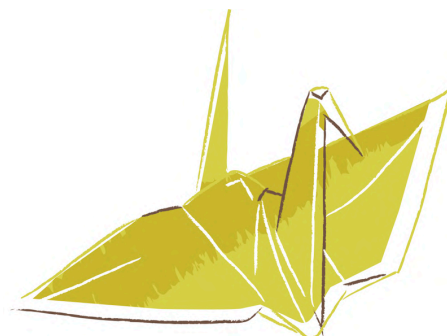
さて、いよいよ春闘（基幹労連では「アクティブプラン（AP）」と言い、今年は「AP23春季取り組み」と言います）が始まります。

基幹労連は、2年をひとつのパッケージとして取り組みを進めており、今年は「個別改善年度」として、格差改善、年間一時金を中心に、部門・部会のまとまりを重視して取り組んでいくことが基本となります。

一方、鉄鋼大手を中心に2年分の賃金改善を確保している組織もありますが、単年度での要求・交渉を行う加盟組合も多くあります。緩やかではありますが、コロナにより落ち込んでいた経済の回復と急激な物価の上昇などを背景に、連合・金属労協が示した賃上げ・賃金改善要求の水準は、昨年比べ引き上げられています。

基幹労連は、2023年度「3,500円以上を基本」とする方針を決めていますので、これをもとに部門・部会毎に業績や上部団体の方針をふまえ要求水準を検討しています。

基幹労連の基本理念である「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」の好循環の創造、その実現に向けて労使でしっかり話し合い、積極的かつ継続的な「人への投資」に向けた取り組みを展開していか



ければなりません。

取り巻く環境は厳しいですが、将来不安を払拭し、組合員とその家族の安心・安定に向けた歩みを止めることのないよう相乗効果を発揮し、「好循環の追求『人への投資』で確かな前進」のスローガンのもと、基幹労連加盟組合全体が連携を密にした取り組みを展開したいと思えます。

産業・中期ビジョンの見直しと結成20年

今期後半年の大きな課題として、「産業・労働政策中期ビジョン（2017年改）」（以下、中期ビジョン）の見直しがあります。

基幹労連の中期ビジョンは、前身であるAV（アクティブ・ビジョン）2010を土台に、中期的な政策として10年先を見据えて2011年に策定したのですが、6年経過した時点で環境の変化や政策の進捗状況などをふまえて見直すこととしています。従って、前回の見直しが2017年であり、その6年後が本年となります。現在、プロジェクトを設置し、加盟組合にも参加いただきながら見直し作業を進めており、今年の定期大会で報告する予定です。

また、今年は、基幹労連結成から20年の節目を迎えます。2003年9月に鉄鋼労連、造船重機労連、非鉄連合の3産別が統合・結成され、その後、2014年の建設連合との統合を経て現在に至っています。20周年記念行事としては、9月に開催する定期大会に連動する形で祝賀会を執り行う予定で検討を進めていますし、記念事業として海外での小学

校建設（寄贈）などを計画しています。新型コロナウイルスの状況が気になるころではありますが、統合の際に作られた基幹労連のロゴに込められた、「地球規模の視野を持ち、連帯・創造・向上を旨とする」という思いをしっかりと承継し、頼れる産別・誇れる産別となるための結成20周年にしたいと思えます。

結びに

基幹労連の事務局長として4年目を迎えましたが、その大半がコロナ禍でありました。この間、基幹労連が基本とする「職場第一線の役員が直接組合員と向き合い“生の声で伝え、生の声を聴き、そして生の思いを伝える”組合運動の原点」とする「JBU原点運動」「Face to faceの実践」が、思うようにできない時期もありました。しかしながら、WEBの活用・併用も行いながら、新たな取り組みも経験することができました。

厳しい時代、先の見通せない状況は続くかもしれませんが、皆で知恵を絞り、勇気をもって立ち向かえば、必ずや道は開けると思えます。引き続き、加盟組合・構成組織の皆さんの思いに応え、そしてお役に立てるように努めてまいります。

今年も「初心忘るべからず」で活動してまいります。共に頑張りましょう！

ご安全に！！